

1月21日(日)

13:00 ~ 16:00 (開場 12:30 ~)

会場 米子市淀江文化センター
大ホール

参加費
無料

※要事前申込

定員
500名

長者ヶ平古墳からみた 淀江・倭・朝鮮半島

井手挾3号墳出土埴輪一括
盾持人埴輪(鳥取県米子市)

内容

司会 佐藤宏之氏
(東京大学大学院人文社会系研究科・特任研究員、東京大学名誉教授)

- 主催者挨拶 納富信留氏(東京大学大学院人文社会系研究科長)
- 趣旨説明 佐古和枝氏(関西外国語大学教授)
- 基調講演 「古墳の築造動向からみた長者ヶ平古墳」
君嶋俊行氏(公益財団法人鳥取県教育文化財団 調査室長)
- 基調講演 「金工品からみた長者ヶ平古墳」
土屋隆史氏(宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室 主任研究官)
- 基調講演 「淀江の古墳から出土した大刀・馬具と倭王権」
高松雅文氏(三重県埋蔵文化財センター活用支援課 課長代理)
- シンポジウム
コーディネーター: 佐藤宏之氏、佐古和枝氏
パネリスト: 君嶋俊行氏、土屋隆史氏、高松雅文氏
コメンテーター: 納富信留氏、
村本由紀子氏(東京大学大学院人文社会系研究科・副研究科長)

申込み方法

電話・FAX・メール等で

- ①代表者お名前
- ②代表者ご連絡先電話番号
- ③参加希望人数(代表者含む)を添えて
米子市淀江文化センターにお申込みください。

- 電話 0859-39-4050
- FAX 0859-39-4051
- Eメール saname@yonagobunka.net
- 申込フォーム QRコード



<開館時間> 9:00 ~ 22:00

<休館日> 毎週水曜日と年末年始(12/29 ~ 1/3)

※お申込み締切 令和6年1月15日(日)

東大人文・淀江プロジェクトとは

1901年日本の考古学・人類学の草分けと評される坪井正五郎氏(東京帝国大学教授)は淀江町を訪ね、本州唯一の石馬に注目しました。また、長者ヶ平から発見された金銅製冠は、今も東京大学に保管されています。そのような縁もあって、東京大学文学部に、昨年から当面5年間の予定で立ち上がった淀江研究のプロジェクトです。
令和4年7月にスタートアップ・シンポジウム、令和4年11月と令和5年1月に市民講座、令和5年3月に特別講座を開催しました。

主催 東大人文・淀江プロジェクト

[東大問い合わせ先] プロジェクト室(佐藤) ☎03-5841-4046 hsato@l.u-tokyo.ac.jp
事務担当(土田) ☎03-5841-4028

共催 米子市、一般財団法人 米子市文化財団[米子市淀江文化センター]

後援 鳥取県、NPO 法人 むきばんだ応援団、「古代淀江ロマン遺跡回廊」推進会議

長者ヶ平古墳からみた 淀江・倭・朝鮮半島

日時

令和6年

1月21日(日)

13:00～16:00 (開場 12:30～)

定員
500名

会場

米子市淀江文化センター 大ホール

参加費

無料



井手挾3号墳出土埴輪一括
鹿埴輪 (鳥取県米子市)

講師プロフィール



君嶋 俊行 氏 (公財) 鳥取県教育文化財団 調査室長

1972年生まれ。栃木県出身。専門は古墳時代、とくに古墳における葬送儀礼。
現在は、古墳時代の大集落である長瀬高浜遺跡(鳥取県湯梨浜町)の発掘調査に従事している。

●講演「古墳の築造動向からみた長者ヶ平古墳」

長者ヶ平古墳は、明治以来1世紀以上に渡る研究によって墳丘や埋葬施設、出土品についての多くの情報が得られており、淀江のみならず鳥取県の古墳研究のうえで極めて重要な位置を占める古墳である。
近年大きく進展している鳥取県の古墳研究の最新成果を踏まえ、墳丘形態や横穴式石室の特徴も手掛かりとしながら古墳の築造動向の中に長者ヶ平古墳を位置づけることによって、激動の6世紀を生きた被葬者の実像に迫る。



土屋 隆史 氏 宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室 主任研究官

1985年生まれ。京都府出身。専門は、古墳時代の対外交流、渡来人、陵墓など。
現在は、百舌鳥・古市古墳群の発掘調査に携わっている。

●講演「金工品からみた長者ヶ平古墳」

長者ヶ平古墳からは冠、装飾大刀、馬具などの希少な遺物が出土している。これらは倭王権、あるいは朝鮮半島南部の諸勢力との交流の結果もたらされたものであり、当時の社会関係を知ることができる資料である。
本発表では、近域の出土品を含めつつ、金工品からわかる長者ヶ平古墳の社会的位置付けについて考えてみたい。



高松 雅文 氏 三重県埋蔵文化財センター活用支援課 課長代理

1978年生まれ。兵庫県出身。専門は古墳時代後期の王権構造、群集墳からみた社会構造など。
現在取り組んでいる研究テーマは、渡来人とその文物について。

●講演「淀江の古墳から出土した大刀・馬具と倭王権」

古墳から出土する鏡や武器・武具等は、倭王権と地域の関係を論じる際に取り上げられる副葬品である。
本発表では、淀江の古墳から出土した大刀や馬具を中心にとりあげて、古墳時代後期における倭王権と淀江地域の関係とその変化に迫る。

コーディネータープロフィール



佐藤 宏之 氏 東京大学大学院人文社会系研究科・特任研究員、東京大学名誉教授

東京都出身。博士(文学)。東京都埋蔵文化財センター勤務を経て、1997年より東京大学大学院人文社会系研究科で考古学を教える。2022年3月定年退職。同年4月より同研究科特任研究員。現在、日本考古学協会副会長、日本旧石器学会会長、日本学術会議連合会員、文化庁文化審議会第三専門調査会専門委員等。主な著書は「ゼミナール旧石器考古学」、「旧石器時代～日本文化のはじまり」、「講座日本の考古学旧石器時代」(上)・(下)ほか多数。



佐古 和枝 氏 関西外国語大学 教授

鳥取県米子市出身。1992年より関西外国語大学で考古学を教える。
NPO法人「むきばんだ応援団」副団長として米子市妻木晩田遺跡の普及活用に取り組む。
現在、文化庁文化審議会第一及び第三専門調査会専門委員、長崎県文化財保護審議会委員、山口県文化財保護審議会委員、特別史跡原ノ辻遺跡調査指導委員など。主な著書は、「吉野ヶ里～繁栄した弥生都市」、「ようこそ考古学の世界へ」、「海と山の王国～妻木晩田遺跡が問いかけるもの」ほか多数。